

第3回 次世代リーダー養成アカデミー 開催



平成24年5月18日、「第3回次世代リーダー養成アカデミー」がJISA会議室で開催された。本アカデミーは、次世代を担うIT人材が、業界内外の有識者による計3回のテーマ別連続講演を通じて、同業他社との情報共有とコミュニケーションを図りながら自らのレベルアップを図れるように、JISA人材部会・企画WG(座長:小野田祐子・TIS(株)執行役員)が企画した事業であり、参加者を男女同数にするなど、女性の高度人材拡大ならびに活躍の促進にも配慮している。

第二期の最終回となる今回は、JISA副会長・技術委員長の國井秀子氏(リコーITソリューションズ(株)取締役会長執行役員)が講師となり、社会と産業のインフラを担う情報サービス産業が、労働集約型産業の典型とされている現実を問題提起し、グローバルな競争環境を見据えた知識集約型産業へのイノベーションを実現するべく試みたもので、JISA会員企業から次世代リーダーの候補者29名が参加した。



國井氏は、「知識集約型に向けたイノベーションの実践」と題して講演し、情報サービス産業の構造的課題に触れながら、国際競争力の強化を踏まえたイノベーションに向けて「顧客価値」「プロセス」「経営」の3つの切り口からアプローチした。なかでも経営イノベーションに向けた対応策として、「課題発見型」の人材育成への転換などを奨励し、また、プロセスイノベーションに向けては、日本が遅れている3つの要素(①上流工程の強化、②ITサービスの体系化、③ソフトウェアプロダクトライン工学)を取り上げて、次のように対応策を述べるなどして、参加者をグループ討論へと導いた。

- ① 要求定義に際して、ひとつひとつの機能に対してコストとバリューをきっちりと計算して優先順位を付けて行くというプロセスが必要であり、ノウハウを体系化したJISAのREBOK(要求工学知識体系)の提案はきわめて重要。

- ② 社会のインフラである IT のサービス体系化には ITIL のような国際的なデファクト標準をうまく活用することが重要。
- ③ 今まで作り上げたソフトウェアを系列化して計画的に戦略的に再利用して効率よく開発していくことが重要。

グループ討論では、「顧客価値」「プロセス」「経営」の3つの観点から各自がイノベーションに向けた課題を出し合い、各グループで整理し発表を行った。講評で國井氏は、「国際競争の激しい状況では一社でイノベーションを実現することは不可能であり、水平分業やパートナーシップが重要な側面となる。経済が低迷しているときは、逆に破壊的イノベーションが受け入れられやすい環境であるので、次世代リーダーの活躍に大いに期待したい」とエールを送った。

閉会後には懇親会が開かれ、参加者は、所属企業、年代、性別を超えたコミュニケーションネットワークを築きながら一人ひとりが今後のイノベーションに向けての抱負を語るなど、充実した雰囲気の中での散会となった。



なお、JISA では2020年までに指導的地位(管理職、ITスキル標準レベル5相当以上の専門職等)の女性比率30%を目指す「JISA ダイバーシティ戦略」を推進している。その活動の一環として、人材多様化イノベーションの実現に向けた女性限定討論会(仮称)が、同日第3回次世代リーダー養成アカデミーの開催に先立ち、小野田祐子・企画WG 座長(TIS(株)執行役員)を発起人として開催され、アカデミーの女性参加者など18名が参加した。

生産年齢人口の減少という日本経済への逆風が、これまで日本人男性社員以外の人材の活用にあまり積極的でなかった日本の人事・雇用慣行の変革を促すための順風となりつつある。このような状況を踏まえ、参加者は、「日本はなぜ女性の活躍度が低いのか」などをテーマに各々の意見を出し合いながら、「人材多様化イノベーション」の実現に向けた道筋を探っていた。

(薦田)